

「ペトロ、牢から解放される」

2016年05月27日

使徒言行録 12章 6節～12節。ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。すると、主の天使がそばに立ち、光が牢の中を照らした。天使はペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がりなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。天使が、「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を着て、ついて来なさい」と言った。それで、ペトロは外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実のこととは思われなかった。幻を見ているのだと思った。第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、ある通りを進んで行くと、急に天使は離れ去った。ペトロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救い出してくださったのだ。」こう分かるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。

ヘロデ王は、使徒ヤコブを殺害するとユダヤの民衆が喜んだので、次にペトロを捕え牢に入れた。牢には4人1組、4組16人の兵士をつけ、厳重な監視をした。過越祭が終わった後、民衆の前で殺害するつもりでいた。その前夜、ペトロは二つの鎖に繋がれ、二人の兵士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。すると、天使が現われ、光が暗い牢を照らし出した。天使はペトロのわき腹をつついて起こし「急いで起き上がりなさい」と言った。繋がれていた鎖がポロリと外れ落ちた。天使が「帯を締め、履物を履きなさい」と言ったので、そのとおりにした。また天使は「上着を着て、ついて来なさい」と言ったので、ペトロは天使について、外に出て行った。彼は自分の身に起こっていることが現実のこととは思わず、幻を見ているような気持ちであった。第一、第二の衛兵所を通り過ぎ、町に通じる鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いた。門を出て、通りを進んで行くと、天使は突然離れ去り、見えなくなった。ペトロは我に返って「今、初めて本当のことが分かった。主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救い出してくださったのだ」と悟った。

使徒言行録の著者はペトロを牢から解放したのは「天使」であったと書いている。その天使は複数のものである。これは、エルサレム教会の信者たちに好意を寄せ、ペトロに主イエスの福音宣教を、更に進めてもらいたいと願う人々の仕業であろう。人との出会いは不思議なもので、私も天使に助けられたことがある。私たちも天使になり得るといふことである。嬉しいことではないか。人との出会いを大切にし、互いに天使になりたいものである。

ペトロはすぐに、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。信者たちが大勢集まって、ペトロのために熱心に祈っていた。「マルコと呼ばれていたヨハネ」とは主イエスが捕縛された時、着ていた亜麻布を脱ぎ捨てて裸で逃げた青年であろう。彼の母親の二階の広間が過越の食事がなされた最後の晩餐の部屋であった。彼女の家がエルサレム教会ではなかったか。「マルコと呼ばれていたヨハネ」はバルナバとパウロの第一回の伝道旅行に同行している。ペトロは神の計らいで死から救出されたのである。